

文科省から「生成 AI の利活用に関するガイドライン Ver.2.0」が公表されました

前号では、当センターより「生成 AI 活用研修ガイドブック」（以下、「ガイドブック」という。）を紹介しました。もうご覧になっていたでしょうか？まだご覧になっていない方は、是非一度目を通していただければ幸いです。

先月、令和6年12月26日に文部科学省より「初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン Ver.2.0」（以下、「生成 AI ガイドライン」という。）が公表されました。この生成 AI ガイドラインは、令和5年7月に公表された暫定版が改訂されたもので、学校教育における生成 AI の利用目的がより明確に示されたことや、児童生徒や学校の教職員の活用例や留意事項、教育委員会が押さえておくべきポイントがそれぞれ詳しく説明されています。

初等中等教育段階における
生成 AI の利活用に関するガイドライン

文部科学省



Mナビ新聞で校内研修!!～クイズを解いて生成 AI の利活用について考えよう～

今回、生成 AI ガイドラインに掲載されている「児童生徒が学習活動で利活用する場面」や「生成 AI パイロット校における先行取組事例」を基に、生成 AI の利活用について考えるためのクイズを作成しました（このクイズは、生成 AI に問題を作成させ、それをたたき台にしました。）。解答後、近くの方と回答理由について話し合うことで、生成 AI の利活用に関する理解を深めるきっかけになればと思います。

以下のような活用場面において、生成 AI の利活用として適切な場合は○、不適切な場合は×で答えてください。（生成 AI サービスの提供者が定める年齢制限や保護者の同意等の利用規約を確認・遵守しているものとする。）

	問 題	解 答
問 1	児童生徒が詩や俳句の創作活動で、生成 AI の案を作品として作成させる。	
問 2	より自然な英語表現を身に付けるために、児童生徒が生成 AI を英会話の相手として活用する。	
問 3	生成 AI を利用して、児童生徒の成績を自動で評価し、そのまま成績表に反映させる。	
問 4	生成 AI を利用して、テスト問題のたたき台を作成し、教師がその内容を基にテスト問題を作成する。	
問 5	情報モラルの一環として、生成 AI が生成する誤りを含む回答を教材として使用し、生成 AI の性質や限界等に気付かせる。	

クイズの回答と解説

問1:× 生成 AI は補助的なツールとして使い、児童生徒が自らの表現力を磨くことが重要です。

問2:○ 英会話の相手として活用したり、より自然な英語表現への改善や一人一人の興味関心に応じた単語リストや例文リストの作成に活用したりすることもできます。

問3:× プロンプトに個人情報である成績情報等は入力してはいけません。児童生徒の学習評価を、教師が判断せずに生成 AI からの出力をもって行うことは不適切な活用です。

問4:○ 教師が内容を精査することで、より質の高いテスト問題を作成することができます。

問5:○ どのように生成 AI を活用していきたいかを考えるきっかけになります。

今回は少しの活用事例しか取り上げることができませんでしたが、生成 AI の具体的な活用事例はガイドブックに多く掲載されています。生成 AI ガイドラインと併せて是非ご活用ください。

生成 AI 活用
研修ガイドブック

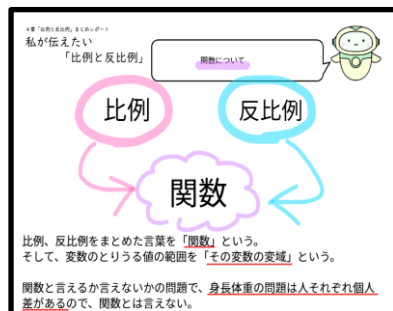


総合教育センターの令和5年度長期研修成果物『プログラミング教育パッケージ「みやプロGo!」』を活用した授業実践例を紹介します。

学校名	名取市立第二中学校	教科、領域	数学（中学校第1学年）
概要	・ 主な学習活動 ★活動の留意点 単元名：比例と反比例（本時21／21時間） 本時は、比例と反比例を学んで変容した考えを、他者に対して的確に伝えることを目標としている。他者に伝えるために、どのように比例と反比例を捉え伝えるのか試行錯誤させ、プログラミング的思考の「分解」、「組合せ」、「評価・改善」の思考を働かせる場面を意図的に作った。 【導入】 ・ 本時の目標と関連付け、プログラミング的思考の5つの思考について振り返る。 ・ オンライン授業支援ソフトで事前に作成したレポートを基に、発表の段取りを考える時間を設ける。＜分解、組合せ＞ ★ 段取りを考える時間に「分解」と「組合せ」の思考を基に声掛けし、生徒が段取りを考えて発表に臨めるようにする。 【展開】 ・ 2、3人のグループになる。 ・ 発表者は制限時間2分の中で、他者に伝える活動をする。 ・ 聞き手は発表に対してのアドバイスをする。 ・ 発表者はアドバイスを基に自身の意図どおりに発表内容が伝わったかどうか検討し、発表の段取りを再考する。＜評価・改善＞ ・ グループ内の発表後、任意のペアを作り、再考した段取りで発表活動をする。 【終末】 ・ オンライン表計算ソフトで作成した「学びの共有シート」に活動を通しての振り返りを入力する。 ★ 振り返りに入力された内容を全体で共有し、どのような内容が生徒の中に残ったのか確認する。		
使用機材 ソフトウェア	生徒使用端末：タブレット端末（iPad） 使用したアプリケーション等：オンライン授業支援ソフト オンライン表計算ソフト		
先生方へ	本時の学習では、プログラミング的思考の中の「分解」、「評価・改善」の思考を取り入れ、比例と反比例を学んで変容した考えを、他者に対して的確に伝える活動を行いました。第1章「正負の数」から単元のまとめとして、レポート発表を継続して行っており、今回で4回目となりました。同様の活動を継続して行ったことで、学んだことをどこまで分解し伝えれば、他者に対してよりの確に伝わるのか、生徒は考えてレポートの構成を考えるようになってきました。そして、文章で伝えるのか、図等を使って視覚的に捉えやすくするのかなど、試行錯誤しながらレポートを作成する生徒が増えてきました。レポート発表に関しては、数学以外の教科でも実践することが可能です。みやプロGo!にある学習活動例をヒントにプログラミング的思考を育む授業づくりについて考えていただけたら幸いです。		



【写真1】伝える活動の様子



【写真2】発表レポートの画像

編集後記

今回ご紹介した生成AIガイドラインには、生成AIに関わる情報モラルや著作権についても詳しく記載されています。生成AIを活用する前に、是非一度目を通してみてください。

【第35号担当：情報教育班 齋藤】